

# 山内徳三郎「福岡佐賀長崎三県下炭坑巡回報告書」 (1884年4月)\*<sup>(2)</sup>

青山英幸\*\*

遠藤一夫\*\*\*

## 三池炭坑

三池鉱山局ハ福岡県下筑紫国三池郡<sup>サガリ</sup>下里村ニ在リ。同国久留米ヘハ南々西凡九里、又肥後国熊本ヘハ北々西凡拾二里ニシテ、其炭坑（七浦坑ヲ云フ）ト相距ル拾五町、又船積場タル横須浜ト隔ルコト八町ナリ。○局長以下主記会計倉庫課等皆爰ニ在リテ局務ヲ総理シ、別ニ開坑課ハ之ヲ七浦炭坑ノ側ニ設ケ、運論課ハ横須浜ニ置キ、各其業ヲ執ラシム。三池煤田ト称スベキモノハ、其幅員稍広ク、福岡熊本両県下ニ係レリ。稻垣工部三等技手ノ十六年一月ニ竣功セシ同煤田地質測量ノ報文ニ由ルニ、筑後国三池郡肥後国玉名郡ニ跨リ、南北ノ長サ凡二里廿七町余、東西凡三里、全面積三千四百四十町歩余（以上ハ同氏測量ノ区域ヲ示スモノニシテ、地下深部ニ至テハ尚此面積外ニ及フト云フ）ナリ。全田中開採ニ堪タル煤炭二層ヲ包括ス。其一ハ八尺、一ハ六尺ニシテ、往昔ヨリ採掘スル所ナリ。但シ二層ノ炭量ハ、露面ヨリ海面下千五百尺迄ノ間ニ尙億五千〇〇七万余噸ヲ含ムベク、内百四十九万六千噸ハ既採部トシ、又掘採ノ際ニ廃耗ニ属スル者ヲ三分ノ一ト看做スモ、尙尙億万噸余ヲ採出シ得ベシト云々。此地炭山ノ発見ハ、文献ノ徴スベキナシト雖

モ、古老ノ伝説ニヨレハ、人皇百四代後土御門ノ御宇將軍足利義勝ノ時世文明元年己丑ノ年間ニ在リト云フ。然レハ今ヲ距ル四百拾六年前ナルヘシ。炭坑ノ数従来四アリ。昨年迄ハ大浦坑ヲ最盛トス。七浦坑ハ尙微々ニシテ、余ノ二坑ハ旧来ノ小坑ノミ。然ルニ大浦坑ノ火災ノ後ハ、全力ヲ七浦坑ニ注キタルニヨリ、目下ハ大ニ整頓セリ。○大浦坑ハ今方サニ鎮火ノ策ヲ講究スル所ニシテ、殆ント廢坑ニ均シク、其他ノ二坑ハ之ヲ生山并ニ中小浦ト称スレトモ、唐津地方ニ於ケルガ如キ小坑ニシテ、觀ルニ足ルモノナシト云フ。

此地炭層中「トヂ」ト唱フルモノアリ。煤状粘土ノ堅微ナルモノニシテ、大小定マラス。層中ニ挿在シ、大ニ坑業ノ妨ケヲナスコト、筑前ノ目尾炭坑并ニ高島炭坑ニ於ケルト相同シト云フ。

## ○大浦坑

此ハ昨年火災迄ハ専ラ採炭セルモノニシテ、坑内ノ広袤頗ル大ニ切羽ノ数亦多ク、日々出炭ノ額四百噸内外ナリシト云フ。今マ全ク密閉シテ廢業セリ。当時火災ノ景況并ニ消火ノ策ノ如キハ、示来官報上ニモ掲載セラレタレハ、爰ニ述ルニ及ハス。今ヤ其試鑿將サニ炭層ニ達スベキノ尺数ニ及ヒ、且ツ三ツ山堅坑

\* 1992年7月18日受理

\*\* 北海道立文書館

\*\*\* 北海道大学名誉教授・北海道情報大学教授

ニ於テ檢セル瓦斯ノ速力温度共ニ甚シカラザルニ似タレハ、或ハ其目的ヲ達スルコトヲ得ベキカ。然モ未タ容易ニ断言シ易カラザルナリ。

#### ○生山中小浦坑

此ハ大浦坑ノ東北ニ在ル小坑ニシテ、其出炭ハ坑口ニ於テ之ヲ売却スルモノト定メ、単ニ居民ヲ使用ス。其出炭ハ即今日々合計三拾四噸許。其坑口ノ売価者噸八十錢乃至壹円、而シテ坑夫ヨリ買上ケ直段等ハ、一ニ七浦坑ニ均シト云ヘリ。

#### ○七浦坑

即今ノ景況タル三池炭坑ハ、即チ此坑ニ外ナラス。其第一堅坑ハ海面上凡四十余尺ノ小丘ニアリ。明治十二年ニ着手シ、同十五年六月炭層ニ達シ、昨十六年一月諸器械稍整備セリト云フ。

第一堅坑ハ円形ニシテ、直径拾四呎深サ二百廿五尺、其上ニ高サ五拾壹呎六吋ナル檣ヲ設ケ、径八呎ノ滑車二個ヲ其上ニ備エ、綱鉄製周囲三吋半ノ捲揚綱(上綱ハ地平ト三十度、下綱ハ三十五度ノ勾配ヲナス)ヲ架シ、長八呎六吋巾三呎三吋ト四分ノ一高サ五呎九吋半目方凡千八百五十磅ノ鉄籠ヲ以テ、一回ニ二炭車ツ、ヲ昇降セシム。其炭車ハ長三呎三吋横二呎五吋深二呎半(約十九立方尺)目方凡三百三十斤ニシテ、七百斤ノ炭ヲ容ルベク、車輪ノ径ハ九吋、軸ノ径ハ一吋ト十六分ノ七ナリ。人ノ昇降モ亦此鉄籠ニ由ル。而シテ此捲揚ヲナスハ、凡四十馬力ノ器械ニヨレルナリ。其捲揚胴ハ径八呎巾三呎貳吋ナリ。

第二堅坑ハ、第一ノ北凡二百尺ニ在リ。坑ノ直径拾四呎深サ凡二百拾尺、以テ扇風器ヲ設ケ、坑内大氣ノ出路トナスノ見込ナリト云フ。目下專ラ右建設中ニ係レリ。

坑外設置ノ汽罐ハ、拾壹馬力ノ「〔一の眼か〕コルニシ汽罐二個、三拾馬力ノ「ランカシト汽罐大個ニシテ、烟突大中小三個アリ。大ハ高サ百尺口径四呎、中ハ高サ七拾五尺口径四呎六吋、小ハ高サ五十尺口径二呎ナリト云フ。

坑内採炭ハ、「ポストエンドストール法ニ由リ、方拾壹間(六十六尺)ノ炭柱ヲ留メ、坑道ハ各幅十五尺ツ、ニ開通セリ。煤層ノ上磐殊ニ堅良ニシテ、又留木ヲ用ルニ及ハス。区画粉然實ニ無双ノ良坑ナリトス。○既ニ前述セル如ク、昨大浦坑火災後ハ全カヲ爰ニ尽シタルヲ以テ、即今ハ切羽ノ数五拾ヶ所ニ及ベリト云フ。坑内ノ景況ハ別紙第一図ニ於ケルガ如シ〔別紙第一図を欠〕。而シテ現今ハ三池集治監井ニ長崎福岡兩県監獄ノ囚徒ノミヲ用キ、一昼夜ヲ二分シ就業セシム。囚徒取締ハ看守長ト看守アリ。又看守中差役掛ナルモノアリテ、鉱山局開坑課員ヨリ指揮ヲ受ケ、專ラ事業ヲ監督ス。又囚徒中伝告者誘工者アリテ其指揮ヲ助ケル等、殆ンド幌内ニ於ケルト異ナルナシ。唯其異ナルモノハ、坑業用ナル提皿(即チ灯蓋皿ナリ。之ニ「ツル」ヲ付ケ使用ス。普通ノ煙火ト異ナルナシ)、鶴嘴ノ外ハ、皆鉱山局ノ支弁スルモノニシテ、蓋シ其灯油ノ消費高及ヒ授受ノ際等不断役夫苦情ノ源ヲナスモノ、如シ。此坑着手ノ炭層ハ八尺層ナリ。然モ断層等ニヨリ四尺許ニ減セル部分モナキニ非レトモ、往々一丈二三尺ニ及フ所少カラス。傾斜ハ三度乃至五度ニシテ、南々西ノ方向ナリ。○目下使役セル坑夫即チ囚徒ノ総數ハ千余名。日々採出ノ炭量ハ五百噸内外ナリ。○坑内ハ漸次軌道ヲ敷設シ、炭車ヲ通ス。其各切羽ヨリ車道アル所迄ハ、径二尺許ナル円形竹籃ニ煤炭ヲ盛り、天秤ヲ以テ二個ヲ連担シ来リ、炭車ニ積入ルモノトス。其二籃ノ容量ハ概ネ百斤許。此運搬ヲナスモノヲ後山ト云ヒ、採炭ヲ事トスルモノヲ先山ト呼フ。賃錢ノ割合ハ二ト一トノ比例ナリトス。○一切羽ニ従事スル先山ハ皆二名ナレトモ、後山ハ車道ヘノ遠近ニヨリ二十間毎ニ割合ヲ加エ、百間迄ヲ五等ニ分チ、即チ八十一間ヨリ百間迄ハ先山二名後山四名ナリトス。賃錢モ亦之ニ準シ五段ニ區別ス〔表は次頁掲載〕。蓋シ炭車一個ノ買上ケ代ナリ。而シテ炭質ノ堅軟如何ハ復之ヲ問ハス。然モ

類別	甲 從零間至二十間	乙 從廿一間至四十間	丙 從四十一間至六十間
塊炭	錢 四. 四一	錢 四. 九七	錢 五. 六七
粉炭	二. 一〇	二. 五二	三. 〇一
	丁 從六十一間至八十間	戊 從八十一間至百間	
	錢 五. 八一 三. 一五	錢 六. 〇九 三. 二九	

〔マ〕  
 實際目撃スル所ニヨレハ、往々堅牢ニシテ容易ニ採掘シ能ハザルモノアリ。但シ柔軟ニシテ易々タルモノ多キニ居レハ、彼此相償フモノトナスナルベシ。其賃錢ノ廉ナル人ヲシテ歎息セシム。○採炭ハ前ニ掲ルガ如ク、沓車(煤炭七百斤入)ツ、定価ニヨリテ之ヲ買上ルナリ。然モ疏水工事ノ如キハ時々請負ヲナサシムルコトアリ。又急掘ト稱シ坑道ノ掘進ヲ急クコトアレハ、一定ノ賃錢外左ノ割合ニ増金ヲ給シ、之ヲ奨励スト云フ。

掘延等級	一週間掘延	捨尺毎ニ増金
一 等	三十尺以上	三円
二 等	三十尺以下廿五尺以上	貳円五十錢
三 等	廿五尺以下廿尺以上	貳円
四 等	二十尺以下十五尺以上	壹円五十錢

車道上ノ炭車運搬ハ該局ノ掉取夫之ヲ司リ、堅坑ノ下ニ運致シ捲揚ケシム。此夫ハ働キ時間ニ由テ賃錢ヲ給ス。但シ練磨巧拙ニヨリ一  
〔送欠か〕  
 等ヨリ十六等迄ニ区分シ、一時間七厘ヨリ沓錢七厘貳毛ナリト云ヘリ。

坑内ニハ自転車沓台ヲ設ケ、上リ(炭層ノ傾斜緩ナレトモ、尚其勾配ニ沿フテ上ルベキアリ、下ルベキアリ。長坂ノ中央ヲ限リテ上下ニ分ツニ相同ク、「上リ」ハ切羽ノ漸次上ヘ進ムヲ云ヒ、「下リ」ハ之ニ反シ漸次下ルヲ云フ)ヨリスル炭車ヲ下シ、空車ヲ揚ルノ用ニ供セリ。又近日曳揚器械設置ノ計画中ナリ。此ハ下リノ部分ニ於ケル炭車ヲ引揚ケ、空車ヲ下スノ為メナリトス。炭車ノ鉄籠ニ由

リテ坑外ニ達スルヤ、小頭其車中ヲ檢シ、塊炭中粉炭或ハ悪石ヲ混スルカ、又粉炭中ニ石片ヲ混スルカ、容量ハ如何ナルヤ等ヲ改メ、之ヲ斜道ノ上端ニ至ラシム(坑口ヨリ斜道  
インフライン  
 上端迄極メテ緩慢ナル勾配ヲ付シタル軌道ニヨリ自転シ下リ、空車ハ押上ルナリ)。此所ニ又役夫アリ。其炭車六個乃至八個ヲ自転車ノ鋼網ニ連繫シ、約三度許ナル勾配ノ斜道ニ由テ実車ト空車ト上下セシム。而シテ其炭車斜道ノ末端ニ達スルヤ、直ニ馬丁之ヲ受取り、一馬ニ四車乃至五車ヲ牽カシメ、軌道上ヲ横須浜迄運搬ス。其距離ハ貳十三町ニシテ、一馬一日五回ノ往返ヲナスヲ常トス。此運搬ハ一人ノ請負ニシテ、一日運送ノ車数ニ由リ沓車ノ運送賃ニ差違アリ。左ノ如シ。

一週間平均	同	同
五百函以下沓車	五百函以上六百五十函以下同断	六百五十函以上七百五十函以下同断
錢 三. 八五	三. 六四	三. 三三
	同	同
	七百五十函以上八百五十函以下同断	八百五十函以上同断
	三. 〇八	二. 七九

炭車運送ハ昼夜ヲ分タス。故ニ軌道ノ傍所々ニ街灯ヲ設置シ、明ヲ取レリ。而シテ此点灯費并ニ車道ノ修繕等ハ、皆此請負人ノ支弁スル所トス。目下使役ノ馬数五十五頭。若シ休業セシムルコトアレハ、馬一頭ニ付飼料トシテ一日金貳十八錢宛ヲ給シ、病馬アレハ其半額ヲ与フト云ヘリ。坑内外使用ノ炭車ハ總計四百個。沓個新調一切ノ費用廿沓円ナリト云フ。又坑内外ノ車道ハ皆橋形軌鉄ヲ敷設ス。其軌幅ハ「十九吋ナリ。坑外ノ軌道ハ二条、平垣ニシテ勾配ヲ見ス。

横須浜ハ即チ大牟田川ノ海ニ注ク所、爰ニ一ノ水閘ヲ設ケ、高ク河水ヲ湛エ、運炭船閘内ニ幅濶セリ。○鉸山局ノ運炭船ハ西洋形小風帆船ニシテ、十艘アリ。内一艘ハ小蒸氣器械

ヲ整置ス。壳艘ノ容積拾五万斤ナリト云フ。他ハ雇入レノ普通大和船ナレハ、大小一ナラス。容積二万五千斤乃至五万斤ノ間ニ在リトス。○軌道ノ終ル所、河岸ニ沿フテニケ所ノ積入場ヲ設ケ、順次炭車ノ来ル毎ニ之ヲ船中ニ積入レ、満潮ヲ待テ水開ヲ開キ、川ニ沿フテ遠ク海中迄掘割タル水路（凡ソ九町許）ヲ進ミ、風順ナレハ帆力ニ由リ、順ナラザレハ局船三池丸（水入四尺船体ノ長サ凡七十九尺巾十八尺許ノ汽船ナリ）ニ曳レ、口之津港ニ運送ス。其粉炭ノ如キハ島原港ニ致スモ亦少カラスト云フ。

横須浜ヨリ島原港へハ海上二十屯英里、口ノ津港へハ三十八英里ノ距離アリ。該局出炭ノ販売ハ悉ク三井物産会社ニ委託取扱ハシム。故ニ横須浜運輸課ニハ同社員モ詰合ヒ、同所ニ於テ石炭ノ受渡ヲナシ、船ニ積入タル煤炭ハ、之ヲ同社ニ引渡シ済ノモノトナセリ。然レトモ島原口ノ津港ヲ始メ長崎上海其他ヘノ運搬并ニ欠減不時ノ損耗等、皆同局ノ負担スル所ナリト云ヘリ。

採出ノ煤炭中、塊炭ハ重モニ上海天津香港芝罘仙頭其他、近来ハ新嘉坡迄モ輸出販売ノ途ヲ索ム。其粉炭モ三分通リハ海外へ輸送シ、余ハ内地ニ鬻クト云ヘリ。昨年六月予定セシ十七年度ノ海外売捌子算高ヲ聞クニ、

上海ニテ	塊炭五万千貳百噸	粉炭壹万九千噸
香港ニテ	同 壹万七千噸	同 壹万七千噸
合計	六万八千貳百噸	三万六千噸

ニシテ、此他仙頭芝罘天津等ニテ五千乃至壹万噸ヲ売却シ得ベク、又汽船ノ燃料等ヲモ合算セハ、拾壹万噸ヨリ下ルコトナカルベシト。而シテ昨年七月ヨリ本年三月九日迄ニ採出セシ石炭ハ総計拾万三千四百〇六噸九二五、又三月二日ノ坑并ニ横須浜其他海外及内地ノ諸方ニ蓄在セル高ハ六万千八百四十六噸（海外ハ昨年十二月ノ調査ニヨル。故ニ現今此高ヨリ減少セシハ無論ナリトス）ニシテ、昨年七月ヨリ十二月迄ニ売捌キタル高ハ、塊

炭三万千〇四十八噸三六七、粉炭壹万〇五百九十三噸七五、合計四万千六百四十貳噸一一七（採出高ニ比シ、売却ト貯蔵トニテ八十餘噸ノ差アリ）ナリト云フ。蓋シ昨年来炭価ノ下落ニ加フルニ、大ニ需用ノ額ヲ減セシモノ、如シ。今十五六両年間ノ需用即チ販売額ヲ見ルニ、其炭量并ニ価格ハ左ニ掲ルガ如シ。

年 別	塊 炭	
十五年一月ヨリ 同十二月ニ至ル	六九, 八四二. 三二二五	
十六年一月ヨリ 同十二月ニ至ル	四九, 三四〇. 八六七〇	
差引減	二〇, 五〇一. 四五五五	

  

平均毎噸ノ 価 格	粉 炭	平均毎噸ノ 価 格
六. 一五ヨ	二八, 三一九. 五五二五	四. 七七ヨ
五. 四九ヨ	一六, 〇八〇. 〇五〇〇	四. 二五ヨ
. 六六	一二, 二三九. 五〇二五	. 五二

是近来三井物産会社ノ類ニ其販路ヲ内地各所ニ索メ、百方弘通ノ道ヲ講スルノ大原因ナルベシ。

前上ノ景況ニ由テ臆測スルニ、当炭坑昨十五年度迄ハ年々多少ノ潤益ヲ見ザルナカリシモ、昨年来世上一般ノ不景氣ニ襲レ、販売ノ高ヲ減殺セラレタル上、其炭価ノ下落ハ暫ラク諸色ノ下落ト差引ヲナスストスルモ、此地ノ如キ専ラ海外ニ市場ヲ占タルモノハ、洋銀ノ下落ニヨリ、二段ノ影響ヲ蒙リタルモノト云フベシ。然レトモ当局者ノ注意最モ周密ニシテ、理財ノ道ニ賢キト、七浦坑ハ極メテ簡易無難ノ良坑タルト、地方賃銭ノ最モ下廉ナルトアリテ、今日此坑ヲシテ、尚深ク困域ニ陥ラシメザルモノナルベシ。蓋シ此炭坑ニ二大欠点アリテ、又大ニ経営ニ困シムルヲ見ル。即チ炭質善美ナラザルト、良港ヲ欠タルト、是ナリ。若シ夫七浦坑ニ下リテ一望スレハ、前述セシ如ク、坑道四通八達、恰モ黒屏裡ニ歩スガ如ク、上下左右皆是炭壁ニシテ、一ノ留木ヲ見ス。且又頭ヲ縮メ胸ヲ併セテ歩スル

ニ及ハス。真ニ快乎ノ歎ヲ免レズ。幌内炭山ノ如キ狭隘ナル坑内ニ在リシモノ、忽チ此坑ニ入レハ、恰モ矮屋ヲ出テ大闊ニ昇リシノ感ナキ能ハザラン。然レトモ可惜。其周囲ノ炭ヲ取テ品質ヲ檢スルニ及ンデハ、将サニ金玉ヲ弄シ来ツテ忽チ<sup>〔ママ〕</sup>珽珠ニ逢フノ歎アラントス。是レ一ナリ。又近傍ノ海湾ハ、四面全ク陸地ニ包マシタルガ如キ形状ナレトモ、到处何レモ遠浅ナラザルナク、干潮ニ際スレハ干瀉トナルモノ十町余ノ遠キニ及ヒ、一ノ良港アルナシ。依之大牟田河口ノ如キ既ニ遠ク水路ヲ掘割リ、僅カニ小船ノ通路ヲ設ケタルモ、曳船三池丸ノ如キ小汽船ダニモ、遠ク沖合ニ在リテ、少シク風波アレハ忽チ逃レテ、島原或ハ口之津港ニ避ケザルヲ得ザルノ景況ナレバ、其不便拳テ言フベカラス。而シテ又島原ノ如キ目下港ト唱ル地ハ、港口極メテ狭隘ナレハ、風波ノ荒ルニ際セハ、出入共ニ危険ヲ極メ、決シテ良善ノ港脚ト云フヲ得ス。唯口ノ津港ハ一良港タリ。然レトモ近来漸ク其深サヲ減シ、今ヤ喫水廿四呎ノ大船ハ入ルコトヲ得スト云ヘリ。且岸上狭隘ニシテ、十分ノ貯炭場ヲ設クベキノ余地ヲ見ス。且此彼相距ル海上既ニ三拾八英里、電線ノ設ナケレハ進退不便ヲ免レズ。是レ其二ナリトス。

炭坑使役ノ囚徒ハ、三池集治監ニテ四百六十名許、長崎福岡両監獄ノ分併セテ五百四五十名ナリト。而シテ昨年大浦坑ニ於テ暴拳ヲナシ、遂ニ同坑ヲシテ殆ント廃業ノ姿ニ至ラシメタルモノハ、熊本監獄ノ囚徒ナリシガ、爾後同監獄ノ囚徒ハ之ヲ謝絶シテ引取ラシメタリト云フ。○囚徒使役ノ利害ニ付、鉱山局官吏ノ言フ所ニヨレハ、監獄ノ囚徒ハ元ヨリ其刑期短縮ナレハ、自然貯金ノ念ヲ断タス。之ヲ御スルニ易キモ、集治監ノ囚徒ニ至テハ、皆重罪ナレハ、自カラ粗暴ノ形状ヲ帯ヒ、坑内ニ於ケルモ監獄ノ囚徒ヲ凌キ、往々局員(巡視下掛等)ニ対スルモ暴慢拳動少カラス。屢坑則ヲ犯シ、其害多シ。本年モ既ニ一暴拳ヲナシ、水車ヲ毀ツ等頗ル妨害ヲ与タヘリト

云ヘリ。其実況ヲ観ルニ、局員ハ常ニ惴々焉トシテ、彼等ガ暴ヲ加ヘンコトヲ是怖ル。故ニ囚徒ハ殊更ニ脅スノ傾向ヲナスモノ、如ク、甚タ憂フベキノ有様ヲナセリ。元来当坑ニテハ、囚徒ヲ役スル日久シケレハ、我幌内ノ参考ニ供スベキ有益ノ方法多カルベシト予想セシモ、其賃錢ノ甚タ下廉ナルト、囚徒衣食費ノ少費ナルトノ外ハ、一モ有益ノ報道ヲ得ス。寧ろ幌内ニ於ケル實際ノ都合相優ルモノ多キニ居ルモノ、如ク、為メニ失望ヲ極メタリキ。蓋シ集治監囚徒ノ衣食費一人一日当リ八錢五厘許、他二県ノ監獄囚ハ同様六七錢ノ間ニ止ルト。其賃錢ノ廉ナル(良民坑夫ト雖モ敢テ異ナルナク、普通常用ノ人夫一時間ノ賃錢一等ニテ壹錢五厘八毛ニ超ルモノナシ)トハ、元ヨリ羨ムベキノ現況ナリト雖トモ、此ハ専ラ地方物価ノ廉ナルニ由テ生スルノ結果ナレハ、之ヲ拳テ直ニ幌内ニ遷スベカラザレハナリ。

三池鉱山局ノ役員ハ、局長心得奏任彦名、局員属官五名、技手四名、傭貳拾貳名(内医員三名)、同巡視拾九名、下掛三拾八名、其余小頭以下職工等凡壹千百名。其十七年度ノ營業費予算貳拾八万七千貳百五拾三円。採炭額ハ「拾五万噸ナリト云フ。

#### 高嶋炭坑

高嶋ハ、長崎県下長崎港ノ湾口ニ於ケル一孤島ニシテ、周囲壹里ニ過キス。島中村落二所ニ分ル。其北面ニ在ルモノヲ本村ト唱フ、即チ古来ノ村落ナルベシ。而シテ島ノ南東ニ面セル山側ニ沿ヒテ人家頗ル多シ。是目下炭坑ノ在ル所ナルヲ以テナリ。

此地坑業ノ目下三菱会社ニ属セルハ、世人熟知ノ所ナリ。而シテ島内ニ高嶋炭坑事務所アリテ、専ラ坑事ヲ所理シ、又長崎ニ長崎高嶋炭坑事務所ナルモノアリテ、偏ニ採出運至ノ石炭ヲ統管シ、且会計上ノ事務ヲ総理スト云フ。故ニ高嶋ニ在ルモノハ現業場ニシテ、長崎ニ在ルハ即チ事務所ナルモノ、如シ。依之坑事ノ質疑ハ之ヲ高嶋ニ於テスベク、經濟上

ノ問題ハ長崎ニ於テセザレハ確答ヲ得ル能ハザルナリ。蓋シ採出ノ石炭ハ、日々之ヲ高島ヨリ長崎港ニ運搬シ、此港ニ於テ始テ販売并ニ各地ヘノ運送ヲ所弁スルヲ以テ、此組織ヲナスナルベシ。

島内ニ石炭ヲ発見セシハ凡ソ三百年前ニシテ、今ヲ距ル凡百五拾年前ヨリ採煤ニ着手セル由。島内所々旧坑多ク、現ニ本村ニ於テ一村ノ雑用ニ供スルノ大水井ハ往時ノ堅坑ニテ、最上層ナル八尺煤ニ就テ開設センモノナリト云フ。此ハ前年海底深淺測量ト坑内高低測量トノ差違ヨリ島面ヲ放レタル坑道ニ於テ、遂ニ海底ニ鑿洞セシヨリ、如形海水ノ浸潤スル所トナリ、廢坑ニ歸センシメタルモノナリト。故ニ此井水ハ鹹味強ク飲用ニ供スル能ハス。唯村家日用ノ雑水トナセルナリ。又島ノ南西面ニモ所々旧坑アリテ、大ニ現今ノ坑事ニ障害ヲ遺セル由。是其深淺方向等ヲ示セル坑内図ナキガ故ニ、其方向ニ坑道ヲ進メント欲スルモ、危険甚シキヲ以テナリ。

島内炭層ノ数ヲ四トス。第一八尺層（海水ノ侵入センモノ）、第二胡麻五尺（現今ノ第二坑）、第三磐トウ五尺層、第四「十八尺層（現今第一坑）之ナリ。其傾斜ハ北面ニ向ヒ、凡ソ二十度許ナルベク、且盤状層ニシテ北西ニ進ムニ随ヒ勾配ヲ減シ、漸ク又那辺ニ昇ルモノ、如シ。然モ中間小波瀾多シト云ヘリ。此ハ単ニ大体ノ方向ヲ示スノミ。尚第二図ヲ參觀スベシ〔第二図を欠く〕。

島内現行炭坑ニアリ。第一第二坑ト称ス。即チ島ノ南東面ニ開ク所ニシテ、第一ハ堅坑。幅十尺長サ十二尺深サ百三十八尺、第四ノ拾八尺層ヲ掘採スルモノ。第二ハ斜坑。其本道ノ長サ二千百尺、中間分岐シテ東西ニ分ル。第二ノ胡麻五尺層ヲ掘採スルモノ是ナリ。但シ此層五尺ノ称アレトモ、實際ノ厚サ拾有尺ニ及フト云ヘリ。○第一二坑ノ炭層中（下）「（下）」ヲ挿在スルコト、三池炭坑等ニ於ケルト相同シ。

現今使用セル坑夫ノ数ハ、凡ソ二千余名（第

一坑ニ千二百余名、第二坑ニ八百余名）。多クハ渡リ坑夫ニシテ、少数ノ島民ヲ交ユ。之レニ二十名ノ納屋頭（坑業下稼人、即請負坑夫親方）ナルモノアリテ、此坑夫ヲ分チテ統轄ス。故ニ事務所ニテハ此納屋頭ニ對シ賃錢等ノ仕払ヲナスノミ。更ニ坑夫銘々ニ向テハ直接ノ關係ヲナススト云ヘリ。

採炭法ハ「ピラーオーク」、即チ炭柱ヲ留メ掘進スルモノニシテ、其掘採セル煤炭ハ各切羽ニ於テ塊粉ニ区分シ、車道迄ハ半円平底ナル畚ニ入ル、天坪ヲ以テ二個ヲ連担シ来ルナリ。而シテ東道ノ各切羽ニ接スル所ニハ炭車ヲ置キ、塊粉炭ノ積入ヲナサシム。此所ニハ書記帳簿ヲ控エ、何某採出ノ塊若クハ粉炭ナル旨ヲ記入シ、一小紙片ニ之ヲ複記シテ其炭車ニ糊付ス。右終ツテ十數車ニ至レハ、鋼製曳揚綱ニ之ヲ連貫シ、坑内ニ設置セル曳揚器械ニ由テ或部分ニ至ラシム。其空車モ亦之ニ由テ積入場ニ下ラシムルナリ。斯クテ右ノ如ク、曳揚タル炭車ヲ其場所ヨリ堅坑ノ下ニ致スト、坑外ヨリ下シ来レル空車ヲ此曳揚場ニ運送スルトハ、共ニ皆馬力ニ藉ル。此馬ハ常ニ坑内ニ馴レシメタレハ、極メテ能ク其勞ヲ執レリ。

坑内ハ四通八達、基道ニ異ナラス。蓋シ第二坑ハ、既ニ専ラ炭柱ヲ載採シ、退歩ヲ謀ルノ運ニ在レハ云フニ及ハス。第一坑ト雖モ、未採部ハ唯僅カニ南西ニ在ル小部分ニ留リ、其北西部等ハ均シク炭柱ヲ載採シ去ルノ歩ヲ取レル如ク、遠ク島面ヲ放レ進メ得ベキ丈ケハ、既ニ進メタルノ坑内ナルヲ以テ、其広袤全島外ニ涉リ、能ク一〇ノ目撃シ得ベキ所ニアラス。故ニ爰ニ誌スモノ元ヨリ其一班ニ過ザルナリ。

第一坑炭層ノ厚サ拾有八尺、加フルニ上磐脆弱ニシテ墜落ノ患絶ザルニ由リ、坑道ハ皆悉ク留木（松材）ヲ用キテ之ヲ防止シ（留木ト留木ノ距離ハ僅々人ヲ容ルベキアリ、全ク密接セルアリ、地位ニヨリ同シカラザルモ、広サ二尺ニ及フハ殆ント稀ナリ）、或ハ留木ヲ

横ニ組上ケテ天井ヲ遮支セリ。然モ尚少シク注意ヲ懈レハ、此組梓モ亦埋没セラレ、其掘力ノ最モ強キ点ニ至テハ、末口六七寸ノ留木モ一日ニシテ碎折セラル、コト、敢テ珍シカラスト云ヘリ。実ニ坑内ニ入レハ、寧ロ留木林ニ在ルモノ、如ク、其夥シキニ驚カザルヲ得ス。○坑内熱度頗ル高シ。且上磐ノ質タル殊ニ熱ヲ醸シ自然燃シ易キヲ以テ、火災ノ虞絶ルコトナシ。現ニ本年モ発火シ、為メニ工事ヲ妨害シ、人命ヲモ損セント云ヘリ。其発火セシ部分ニ近付キ之ヲ撿セシニ、既ニ鎮滅ニ属シタリト聞ケトモ、所々尚焚煤ノ臭氣ヲ残セリ。蓋シ坑内モ大氣ノ進路(坑外ヨリ清氣ノ吹入ル、部分)ハ熱度甚タ高カラザルモ、其退路(坑内各所ヨリスル汚氣ノ扇風器ニ誘レテ坑外ニ出ルノ通路)ニ於テハ、熱度ノ高キ九十八九度ナルベキカト思ハレ、満身汗ニ浸リ、時ナラスシテ炎夏苦熱ノ状態ヲ感シタリキ。故ニ坑夫ノ如キハ皆裸体ニシテ業ヲ執リ、曾テ懐鼻揮ヲモ施スモノアルコトナク、全身ノ流汗ハ尚淋漓タリ。

採炭ニハ鶴嘴(三池炭山所用ノ品ニ比スレハ、其重量大ニ輕キヲ覺エ)ヲ用ルノミ。而シテ炭ニ触ル、ノ響音濁々、恰モ土俵ヲ打ツモノ、如ク、手ニ随テ煤炭碎落シ来リ、須臾ニシテ目前ニ堆積スルヲ見タリ。但シ此部分ハ近来最モ軟柔ニ属セルモノナリト云ヘリ。坑内ノ溜水ハ、唧筒ニ由テ絶エス之ヲ坑外ニ致スコト、第一二坑共ニ相同シトス。其数予備共ニ二十四個。水量一分時間八十四立方尺ナリト云フ。又坑内可燃瓦斯ノ患アリ。故ニ所用ノ灯火ハ、「デウヒー并ニ「クラニー氏ノ安全灯ニ限レリ。此ハ皆事務所ヨリ銘々ニ貸与シ、油モ之ヲ給与スルモノトス。且之ヲ渡スニ当リ、一々ニ錠ヲ下シ、猥ニ開閉スルコトヲ得ザラシム。為之又坑内適宜ノ地位ヲ計リ、別ニ灯番ナルモノヲ置キ、鍵ヲ掌リ、油ヲ備エ、以テ安全灯ノ不時ニ消滅セシモノ、或ハ網ノ煤ニ汚レテ火光ヲ失セシモノ、或ハ灯油ノ尽タルモノアレハ、此灯番ニ就テ

修理スルコトヲ得ルノ便ヲ設ケタリ。其用ル所ノ油ハ近来落花生油ニ定メタル由。此ハ上海ヨリ輸入スル所ト云フ。光明稍可ナリ。其安全灯ハ入坑ノ際ニ受取り、出坑ノ際之ヲ返付スルモノトシ、為メニ一室ヲ設ケテ受渡ヲナシ、掃除等別ニ其役夫ヲ設ケタリ。此灯室ニ入テ一見セシニ、其数実ニ夥シカリキ。第一坑ノ堅坑ニ近キ所ニ於テ、炭層中ニ浴室ヲ設ケタリ。高サ凡八尺巾九尺長サ十五尺許ノ所ヲ休息所トシ、之ニ隣テ方一丈許ノ所ニ二個ノ風呂ヲ設ク。其湯ハ坑内唧筒ニテ生スルモノヲ用ヤルナリ。各所巡視ノ後一浴シテ満身ノ汗ヲ去ル、殊ニ爽快ヲ覺フ。実ニ高嶋炭坑ハ百事完備セルモノト云フベシ。

坑夫ハ通例ニ番方ト定ム。採炭買上ケ方法ハ三池炭坑ニ於ケルト均シケレトモ、価格ニ至リテハ差アリ。且切羽ノ遠近ハ之ヲ四等ニ分チ、塊炭壹万斤貳円四拾六錢四厘ヨリ三円五十八錢四厘、粉炭同壹円六十三錢貳厘ヨリ貳円十七錢六厘迄トス(常用人夫一日十二時間働ニテ、金拾三錢ヨリ三十錢ナリト云フ)。

壹車ノ容量ハ十九立方尺ニテ、之ヲ六百斤ト定ム。但シ車ノ容積ハ三池炭山ニ於ケルト均シキモ、炭質ニ由リ斤量ニ差アルモノナルベシ。○坑内大氣ノ流通ハ扇風器ニ由レリ。又所々ニ扉ヲ設ケ、開閉シテ通路ヲ左右セシム。其扇風器ハ坑外ニ設ル所ニシテ、蒸氣力ニ由レリ。其羽車ノ径ハ拾八尺、一分時間回転ノ数ハ通常五拾八ナリト云フ。○同所ノ鉸山士南部球吾氏ノ言ニ曰ク。坑業ニ属スルノ危険困難ハ当炭坑一モ之アラサルハナシト。前条述ル所ニ由ルモ其言実ニ夫然ランカ。之ヲ三池炭坑ニ比スレハ、其難易誠ニ著大ノ差アリト云フベシ。高嶋煤炭原価ノ廉ナラザル實際不得止モノ亦之アルモノ、如シ。

坑内所々ニ曳揚器械并ニ自転車ヲ設置シ、馬力又之ヲ助テ、各切羽ヨリノ炭車堅坑ノ下ニ来レハ鉄籠ニ車ツ、ヲ入レ、之ヲ坑外ニ捲揚ケシム。而シテ炭車ノ坑外ニ出ルヤ、役夫アリ。直ニ之ヲ斤量改所ノ前ニ致セハ、検査

役アリ。鉄棒ヲ取テ一々之ヲ改ム。右終ツテ炭車ヲ権衡上ニ致ス。此権衡ハ予メ炭車并ニ六百斤トノ重量ヲ併セ分銅ヲ仕掛ケ置ケルヲ以テ、其定量以上ノモノハ之ヲ通過セシメ、炭車ニ糊付セシ小紙片ハ此時之ヲ取りテ、何某所採ノ塊粉炭ト車数トヲ帳簿ニ記入ス。其炭車ハ之ヨリ直ニ自転車ニヨリ四五乃至六七車連貫シテ斜道ヲ下リ、船積場ニ達スルナリ。但シ斤量ノ不足ナルモノハ、其割合ヲ檢シ、塊炭ニ多量ノ粉炭悪石又粉炭ニ悪石ヲ混スルモノ、如キハ、都テ之ヲ再撰セシムト云ヘリ。

船積場ハ海中ニ突出セル棧橋上ニ設ルモノニシテ、左右ヲ塊粉ニ区分セリ。故ニ炭車ノ来ルニ及ヒ、之ヲ左右ニ分チ、直ニ船積ヲナスナリ。○運炭船ハ長崎港ト高島トノ間ヲ往返スルモノニシテ、順風ニハ自ラ帆力ニ由リ、風順ナラザレハ事務所々属ノ小汽船ニ曳レ、日々ニ渡航ス。此ハ皆雇ヒ船ナレハ、大小元ヨリ一ナラス。且概ネ大和船ナレトモ、近来西洋形小風帆船并ニ大和船ヲ風帆形ニ改築セシモノ少カラス。此改造船ハ二橋ニシテ、横ニ小丸太ヲ縫付ケタル帆ヲ用ユ。外觀奇形ニ属スルモ、頗ル弁利ナルモノト云ヘリ。

第二坑ハ、炭層ノ稍薄キト堅坑ナラザルノ外ハ、都テ第一坑ニ異ナラスト云フ。但此坑ノ曳揚器械ハ、一個ヲ坑口ニ備エ、是ヨリ船積場迄ハ馬力ヲ使用セリ。其中途別ニ斤量改所ヨリ、都テ前ニ述ル所ノ如シ。

目下日々採出ノ炭量ハ、八百五拾噸ヨリ九百噸ナリト云フ。而シテ第一二坑共ニ、既ニ炭柱載採ノ業ニ属シタレハ、当炭坑ノ命脈ハ蓋シ久シカラザルベシ。但シ第一坑ニハ尚若干ノ未採部アリ。其炭柱ト雖トモ数多ク、層厚ケレハ爾後此兩坑ヨリ出ス所ノ炭量ハ、尚巨額ナラザルヲ得ス。後年ノ見込ハ之ヲ事務所ニ質スモ、判然ノ答ヲナス能ハスト云ヘリ。故ニ元ヨリ想像ニ過ザレトモ、仮今春ケ年採出額ニ三拾万噸トセハ、恐ラク二拾年内外ニ

過ザルベシ。

昨十六年中採出セシ炭額ハ二拾八万噸（塊粉兩炭ノ総数）。其所費ハ九拾四万九千八百六十貳円二十八錢四厘。即チ塊粉平均尅噸金三円三十九錢二厘余。又本年ノ採炭予算額ハ三拾万噸ニシテ、所費ハ「百零八万五千円、即チ平均一噸金三円五十錢ノ見込ナリト云ヘリ。而シテ其現今貯蓄ノ炭量ヲ聴クニ、総計貳万〇九百五十六噸ニシテ、内訳左ノ如シト云フ。

- 一 七千貳百七拾七噸 長崎陸上倉庫十三棟并ニ空地ニケ所
  - 一 三千〇六十五噸 同港内運送船
  - 一 六百七十七噸 高嶋碇泊運送船及空地ニ
  - 一 貳千貳百七十尅噸 上海石炭倉庫
  - 一 貳千八百〇四噸 香港同上
  - 一 千三百六十噸 芝罘同上
  - 一 千九百貳十三噸 箱館同上
  - 一 千五百七十九噸 横浜同上
- 合計貳万〇九百五十六噸

採炭ノ際等ニ於テ塊粉ニ分ル、ノ割合ヲ質セシニ、掘採ノ際粉砕スルモノ十分ノ五、陸上ケ其他運送船ニ積ノ際粉砕スルモノ十分ノ六、又本船へ積込ノ際ニ粉砕スルモノ区々ニシテ詳カラナラスト。然レトモ此ハ恐ラク十分ノ六以上七ニモ至ルベキ模様ナリト聞ケリ。現ニ高島船積場ニ於ケルノ景況ヲ觀ルニ、満車ノ塊炭船室ニ達スレハ、恰モ粉砕スルモノ半ニ過クベキニ似タリ。且東南風荒ル、時、或ハ北ヨリ烈風ヲ来セバ、伊王島ノ岬ヨリ吹入ル、激浪ノ為メ、長崎港トノ通船ヲ遮断セラル、ヲ以テ、採出炭ハ多ク之ヲ陸上ニ貯エザルヲ得ス。其貯炭場ハ尅丈四五尺ノ陸橋上ヨリ瀉下スルヲ以テ、為之粉砕スルコト船積ノ比ニアラスト云ヘリ。而シテ之ヲ又船積センニハ、坑内ヨリスルト異ナラサレハ、其粉末ニ帰スルノ粉実ニ夥シキモノト云フベシ。故ニ坑外ニ達シタル塊炭ハ、船積等



ニ其十分ノ六、本船積込ニ十分ノ六ヲ粉碎スルモノト算センニ、始メ坑外ニ於テ百噸アリシ塊炭ハ、本船ニ達シ僅カニ拾六噸ノ塊炭ヲ余スベキノミ。之ヲ再ヒ他港ニ運送シ重テ陸上ケ船積ヲナストセハ、塊炭ハ殆ンド粉炭タルベシ。是高島炭ハ其塊炭ト称スルモノモ、殆ント粉炭ナルカノ観アル所以ナリトス。昨年ト本年ノ採出額ニ差アルモノハ、世上一般ノ不景氣ニツレ、昨年間ハ稍工事ヲ縮メ坑夫ヲモ減少セシメタル由ナリシニ、近来少シク又需用ノ高ヲ加ニ、良景況ヲ呈出シ来リシニ由リ、其事業ヲ進メタルモノナルベシ。今其販路ヲ問フニ、長崎ヲ除クノ外ハ重モニ海外ニアルモノ、如シ。其一ヶ月販売見込ノ割合ハ左ノ如シト云ヘリ。

- 一 七千四百噸 長崎
- 一 貳千噸 横浜
- 一 千百噸 自家坑業用
- 小以壹万〇五百噸
- 一 六千三百噸 香港
- 一 四千七百噸 上海
- 一 五百噸 天津
- 一 貳百噸 芝罘
- 一 貳千噸 ウエイヘイウエイ西貢  
廈門仙頭新嘉坡等ノ諸港合計

小以壹万三千七百噸

總計貳万四千貳百噸

地名	塊炭 壹噸
長崎	四弗ヨリ四弗六拾仙
香港	五弗六十仙ヨリ六弗
上海	四兩ヨリ四兩五匁
横浜	五弗五十仙ヨリ六弗
爾余諸港	三弗七十五仙ヨリ四弗五十仙
	粉炭 壹噸
	貳弗八十仙ヨリ三弗二十五仙
	四弗三十五仙ヨリ四弗五十仙
	二兩九匁ヨリ三兩壹匁
	貳弗五十仙ヨリ貳弗八十仙

右壹ケ年ノ合計ハ貳拾九万零四百噸ナルベシ。此他函館神戸等ニ於テモ亦幾分ノ販売ヲナスナラン。而シテ其価格ハ左ノ如シト云フ〔表は前掲〕。

本社即チ三菱汽船会社ト炭坑事務所トハ、元ヨリ經濟ヲ異ニセルヲ以テ、同社船舶ヘモ他ト均シク売込ヲナスノ手續ニシテ、其壹ケ年ノ消費額ハ六万噸弱ナリト。今各地ヘノ運搬賃ヲ聴クニ、

香港	上海	横浜	芝罘
貳 弗	壹弗六十仙	壹弗七十五仙	壹弗廿五仙
	天	津	ウエイヘイウエイ
	三 弗 五 十 仙	貳	弗

其他ハ船便ノ都合ニ付予定シ難ク、又香港其ノ余モ時宜ニ依リ五六十仙ハ低廉ナルコトアリト云ヘリ。

前ニ掲ケタル坑夫請負親方即チ納屋頭ニ對スル賃錢ノ支払ハ、益暮ノ二期ト定メ、其余ハ唯帳簿上ノ稼高ニ對シ彼等臨時ノ請求アル毎ニ内金渡ヲナスモノナリト。蓋シ此高島ハ長崎ヲ距ル海路僅ニ六里ニ過ザレトモ、東南并ニ北風ノ激烈ナルニ逢ヘハ全ク其通路ヲ遮断セラレ、四五日乃至六七日モ打続キテ、日和ヲ得ザル時ハ、島内日用ノ食料ニ困ムコト往々ニシテ之アリ。然モ納屋頭ナルモノ多数ノ坑夫ヲ抱エ、能ク此準備ヲナスベキ資金アルモノハ殆ンドアラザルニ由リ、事務所ニ於テハ予メ米噌塩酒ヲ始メ生活ニ必用ナル物品ハ悉ク之ヲ買入レ置テ、常ニ彼等ニ除売シ、二期ノ勘定ニ至リテ決算スルコトナセル由。惟フニ日々ノ稼キ高多数ナルガ上ニ、仕払ノ期限極メテ長ク、加フルニ如此手数ヲ要スルモノトスレハ、事務所ノ煩雜誠ニ易々ナラザルベシ。

島内既ニ採炭ノ為メ其地下ハ全ク坑道トナレルヲ以テ、更ニ清水ヲ得ルコトヲ能ハス。為之島民日用ノ飲料ハ、日々對岸并ニ香燒島等ヨリ水船来リテ販売分付スルヲ待ツノ外ナシ。若シ夫レ烈風數日、此水舟ノ来航ヲ断ツ

ニ及ヒテハ、殆ント湯水ノ苦ヲ免ル、モノナシ。且殊ニ清水ナシ。蒸気器械ノ使用ハ不得止之ヲ坑内ノ水ニ仰ガサルヲ得ス。其器械損傷ノ速カナル又如何共スル能ハスト云々。炭坑所雇ノ外国人四名アリ。鉦山師名、同助手名、器械師名、同助手名ニシテ、此鉦山師ハ事務長ト謀リ一切ノ事業ヲ統轄スルモノ、由。坑外鑪場、グライバン、鍛冶場、機関加治場、雛形大工場、ブリツキ細工場、鋳物場（鋳物ニハ粉炭ヲ以テ枯煤ヲ製シ之ヲ用ユ）等アリ。器械其外概ネ此地ニ於テ之ヲ製造スト。現ニ第一坑ノ扇風器ニ使用セル器械ハ此地ノ製造ニ係レリ。

外国人ノ外高島炭坑事務所ニハ長、次長、鉦山士等廿九名ノ役員アリテ諸事ヲ弁シ、又坑内外使役々夫即チ小頭出炭着到掛、火ノ番、鍛冶、大工、器械、油差、火夫、鐘引、函押夫、馬丁等人員凡ソ尙千人ニ及フト云フ。

#### 中ノ島炭坑

中ノ島ハ、高島ノ西南尙里許海中ニ孤立セル一小嶼タリ。島ノ面積凡ソ五町許ニ過キスト云フ。沿岸岩礁兀立、少シク風波アレハ舟楫近付クコト能ハス。加フルニ島内極メテ平地ニ乏シ。実ニ不便ヲ極メタル地ナリト云フベシ。

島中ノ石層ハ、北八十五度、西ノ方向ニ傾クコト凡ソ廿五六度ニシテ、其石層ノ形状等ヲ一見スレハ、遙カニ高島ト相応シ、往時ハ彼我相連続セシモノナルヲ証スベキナリ。而シテ今回同島ヘ赴シ時ハ、恰モ坑事担任ノモノ不在ニシテ、坑事ノ詳細ヲ問フニ由ナク、且長崎帰航ノ時間又促迫ナリシヲ以テ、親シク坑内ニ下リ実験シ能ハザリシガ故ニ、其委曲ヲ知ルニ由ナカリシハ最モ遺憾ニ堪ヘス。故ニ唯同所ニ於テ見聞セン所ト、三池鉦山局ノ宮崎技手ガ曾テ同島ヲ巡回シ復命セン所トニ由リ、聊カ左ニ之ヲ述フヘシ。

島ノ東南隅ニ一ノ堅坑アリ。明治十年中ニ着手シ、昨十六年六月ヨリ出炭ニ及ヘリト云フ。其堅坑ハ幅十尺長サ十三尺深サ百九十八

尺、即チ目下採炭スル所ナリ。炭層ノ厚サハ八尺ニシテ、高島ニ於ケル第一層ト同一層ナリト稱セリ。坑内ノ本道ハ、堅坑ノ直下ヨリ北ヘハ七百二十尺余、南ヘハ四百八十尺ヲ進ミ、「下シ」ノ最モ長キハ貳百七十尺許ニ及ヘリト云フ。其採炭法排出法等ハ、一ニ皆高島炭坑ノ法ニ由ルモノ、如シ。即今坑夫ノ數三百名。之ヲ一昼夜三番方ニ分ツ。其目下日々ノ出炭額ハ拾五六万斤ナリト云ヘリ。

堅坑ノ側ニハ既ニ捲揚器械ヲ据付タレトモ、未タ鉄籠ノ設ケナク、唯三十斤入ノ竹籠ヲ桔槔セシメテ、出炭并ニ坑夫出入ノ便ニ供セリ。故ニ「上下ノ際竹籠旋轉シ、堅坑ノ周圍ヨリ滲出スル所ノ漏水ハ全身ヲ濕シ、頗ル不便不潔ノ形状ヲナセリ。

炭質ハ、之ヲ即今ノ高島炭ニ比スレハ、稍堅ク深黒色ニシテ光沢アリ。其傾斜ノ度方向等ハ島内ノ石層ト相同シク、西ニ斜下セリト云フ。坑外ニハ兩胴捲揚器械并ニ汽罐四個ヲ設置セリ。又坑内ニハ八個ノ唧筒ヲ備フト云フ。岸頭ニ數十間ノ石垣ヲ築キ、之ヨリ棧橋ヲ築出シ、以テ船積場トシ、其石垣ニ沿フテ山側ヲ切均ラシ、粗造ノ陸橋ヲ敷設シテ貯炭場ヲ設ク。然モ其区域狹小ニシテ、若シ盛大ノ採炭ヲ起サハ忽チ差支ヲ生スベシ。

目下長崎ニ於ケル此坑ノ炭価ハ、塊炭一噸三弗七十五仙、粉炭同貳弗五十仙、上等塊炭ハ四弗廿五仙。又掘採ノ際ニ生スル塊粉炭ノ割ハ六ト四ノ比例ヲナセリト云ヘリ。若シ此炭質上ヨリ觀察シ来レハ、此價格ノ高嶋炭ニ及ハザルハ怪ムベキニ似タリ。是或ハ外觀彼ニ優ルモ實際ニ於テ及ハザルモノアルカ、或ハ未タ他ノ信用ヲ得ル能ハザルニ由ルナラン。既ニ前述セル如ク、此島ノ面積ハ僅ニ五町ニ過キスト云フ。然ルニ爰ニ此堅坑ヲ下スニ先タチ、予メ綿密ニ島ノ周圍海底ノ深淺ヲ測量セシヲ聽カス。目下尚其如何ヲ知ラザルモノ、如シ。蓋シ西ニ傾斜スルノ勾配廿五六度ニ及フヲ以テ推測スレハ、恐ラク海底ニ掘進ムモ或ハ危險ナルベキカ。然レトモ炭層必ラ

スシモ傾斜一樣ナルモノニ非ス。降ル極レハ復昇ス。即チ盤状層ノ側面ハ是均シク鞍状層ノ側面タルベキヲ以テ、常ニ均シク斜下スルモノト為ス能ハザルノミナラス、其間小波瀾又之アルベキハ、目下小学ニ遊フノ童子モ粗ホ其理ヲ知レリ。然ルヲ尚予メ採炭シ得ラルベキ区域ノ広狭如何ヲモ測ラス。恬然巨財ヲ抛チ此業ヲ起セシ其人ノ胸算果而何ノ点ニアルヲ知ラス。蓋シ速カニ周田海底等ノ調査ヲ遂ケ、又坑内ニ試錐ヲ下シ、果シテ其炭層ノ下彼高島ニ於ルガ如ク胡麻五尺磐トウ五尺并ニ十八尺等ミ炭層アルベキヤ否ヲ調査スベキハ、目下ノ最急務ナリトス。若シ夫此調査ニシテ好結果ヲ得ハ、大ニ後來ニ望ヲ屬スベキナキニアラザルナリ。

○

前上各所ノ巡回ハ、三月十三日山口県下長門国下関ヲ出発セシヨリ同月二十九日長崎ヲ出発セシ迄日数僅ニ十六日、其間唐津ニ一日、三池ニ四日、高島ニ一日、長崎ニ一日、合計七日ノ滞在ヲ除クノ外ハ概ネ奔走ニ費セシヲ以テ、自然見聞詳細ヲ欠キ、將タ誤謬ニ屬スルモノ亦必ラスナキヲ保スル能ハザルハ深ク恐懼ニ堪ユザル所ナリ。然レトモ三池高島両炭坑ニ於テハ、親シク其担任者ニ就キ実地ニ臨ミ見聞セシモノ、ミナレハ、遺漏ハ元ヨリ有之モ、恐ラク差謬アルコトナカルベシ。今暫ラク各地ノ見聞ヲシテ大差ナキモノトスレハ、各地ノ出炭額ハ左ノ如クナルベシ。

	壹ヶ月平均
筑前 地方	四千八百六十噸
唐津 地方	目上 七千八百噸
多久 地方	同上 貳千四百噸
三池 炭坑	同上 壹万四千噸
高島 炭坑	同上 貳万五千噸
中ノ島炭坑	同上 貳千七百噸
合計	同上 五万六千七百六十噸

〔筑前 地方〕	香月炭坑一日十五万斤目 尾炭坑一日十貳万斤 合計一日二十七万斤ノ割
〔唐津 地方〕	壹千三百万斤ノ算
〔多久 地方〕	四百万斤ノ算
〔三池 炭坑〕	一日凡 四百七八十噸ノ算
〔高島 炭坑〕	同 八百五十噸弱ノ算
〔中ノ島炭坑〕	同 捨五万斤ノ算

此壹ヶ年ノ額ハ六十八万千百貳十噸ナルベシ。而シテ海内外日本炭ノ需用額ハ之ヲ詳知セスト雖モ、清国上海壹ヶ年ノ需要高ハ二十万噸内外ナル由。仮ニ此額ノ七分ヲ日本炭ト見倣セハ拾四万ナルベク、又大阪府毎壹ヶ月ノ消費高ハ六千九百噸ナリト云ヘハ、其壹ヶ年ノ高ハ八万貳千八百噸ナルベシ。之ニ三菱汽船会社壹年ノ消費高六万噸弱ヲ合セ總計貳拾八万貳千八百噸ナルベケレハ、前条所載ノ炭坑ヨリ出ス所ヲ以テスルモ、尚四十万噸内外ノ残余アルベシ。元ヨリ其販路ハ海内外各地ニモ尚多シト雖モ、此他長崎県下香焼炭坑、平戸今福地方ノ諸炭坑、福岡県下筑前黒未其外小炭坑并ニ豊前国赤池地方等彼若松港ニ会スルモノヲ始め、中国東国ノ産ヲ合セハ、供給ノ需用ニ過クルヤ敢而疑ヲ容ルベキニアラス。近来稍販売ノ景況挽回ノ勢アリト称スルモ、国内工業勃興ノ期ニ至ラザル以上ハ、此業ニ従事スルモノ決シテ安意スル能ハザルベキナリ。